

第5回小さいとこサミット <ささやま宣言>

<前文>

全国には、自然系や人文系など、様々な分野のミュージアムがあり、日々活動している。その多くは学芸員などの職員が不在あるいはわずかしかない小規模ミュージアムであり、地域資源を活用し教育や文化の発展に寄与するものとして重要でありながら、昨今の長引く不況や地方の過疎化の影響で、予算の縮小・来館者の減少などが続き、疲弊している。

我々、小規模ミュージアム＝“小さいとこ”に関わる者は、1つの施設だけでは力が及ばない課題を解決するため、情報交換や支援などで協力し合い、年一度集まることで、それぞれが地域に根差した活動を続ける“小さいとこ”の魅力を発信し続けてきた。

篠山で開催された第5回小さいとこサミットでは、「小さな町の（存在感の）大きな博物館」をテーマとした。ミュージアムがあるからこそ小さな町が盛り上がっていたり、ミュージアムを中心に人が集まってきて地元に移り住んだりというような、地方にミュージアムができたことで町が変わった事例を紹介し、小規模ミュージアムの連携と地域社会との関わりについて議論した。

今回のサミットでは、（1）地元や来館者に愛される職員がいて退職後も定住したり他機関で活躍したりと、地域のミュージアムが優秀な人材の輩出機関などとなっている事例、（2）職員がカリスマ的存在となって地域で活躍する事例、（3）非常に小規模でありながらジオパークという国際ブランドを取り込んで地元貢献する事例、（4）職員が外部からの移住者であっても地域と連携し溶け込もうと努力する事例など、さまざまなミュージアムの地域における大きな存在感の事例が報告された。

中でもサミット開催館となった篠山チルドレンズミュージアムは、2001年の開館以来、地域において家族以外に子どもを育てる大人がいる施設として、地元篠山の教育や文化の発展に寄与してきたが、予算の縮小などで一時休館に追い込まれた。しかし、元職員やボランティアなど地域を巻き込んだ新たな運営手法を取り入れて2013年春、約1年3か月ぶりに再起を果たした。この裏では、小規模ミュージアムネットワークが館再開の前後にサミット開催など様々な形で支援を行った。こうした連携の事例は、疲弊した地方にあって休館や閉館

の危機に見舞われている他の小規模ミュージアムにおいても安定的な運営のための参考になると思われる。

そこで、第5回小さいとこサミットでの議論を踏まえ、我々小規模ミュージアムネットワークは以下の宣言を採択し、さらに“小さいとこ”の魅力を創造し、発信していくものとする。

<宣言>

1. “小さいとこ”だからこそできることを考えよう
2. 数値で表わせないことも評価しようと呼びかけよう
3. 小さかったらつながって、自分の良さをみつけよう
4. “大きいとこ”にもつながって、みんなと共有しよう
5. 地域に溶け込み、誇りを持って続けていこう

1. “小さいとこ”だからこそできることを考えよう

——小規模ミュージアムの強みを意識した運営を行う

小規模ミュージアムの最大の強みは、膨大な資料や大規模な施設ではなく利用者との距離が近いこと、つまりきめ細かで利用者に顔の見える活動ができることにある。これにより、利用者や職員が地域の人材として育つ場となる事や、人が集まり盛り上がる場となる事ができる。加えて職員数が少ないゆえに内部の意思決定が比較的素早くできる。我々はこの点を確認し、人的な魅力と機動力を駆使し、地域資源を活かしながら、地域の一員としてのミュージアム運営に尽力する。

2. 数値で表わせないことも評価しようと呼びかけよう

——新たな評価基準を訴求する

このような魅力こそが社会における小規模ミュージアムの存在意義のひとつであり、活動の評価には各館のミッションや職員・ボランティアの満足度、地域との親密度などに応じた評価基準が必要となる。そのため我々は、数字による評価だけでなく、これからのミュージアムの質的な評価基準づくりのモデルとなるよう、その訴求に努める。

3. 小さかったらつながって、自分の良さをみつけよう

———存在意義を高めるために小規模館同士のネットワークを強化する

また、小規模ミュージアム同士は、情報交換や互いの支援などのためのネットワークを強化することで、互いを刺激しあい、地域における各館の存在意義を高め合うとともに、各館の活動が唯一無二の重要な存在として世界に誇れるレベルであることを自ら認識し、発信する。

4. “大きいところ”にもつながって、みんなと共有しよう

———利用者のための小規模館と大規模館のネットワークを強化する

小規模ミュージアムは、利用者の知的好奇心や疑問などの相談に応じ、その内容に応じて適切なミュージアムや関係機関を紹介する。また、小規模ミュージアムと大規模ミュージアムのネットワークの構築によって、大規模ミュージアムが利用者の居住地の小規模ミュージアムを紹介したり、ミュージアムとの長期的な関わりを望む利用者に地域密着型の運営をするミュージアムを紹介することが可能となる。このことは、利用者だけでなく、小規模ミュージアム、大規模ミュージアム、双方にとっても利用者の適切なマッチングができるといったメリットがある。

5. 地域に溶け込み、誇りを持って続けていこう

———継続性のあるミュージアムの実現

我々は、地域の文化的なハブとしての存在を意識し、文化・伝統・記憶・自然などの地域資源を蓄積し、残し、共有する役割を持ち続ける。さらに、市場原理に基づく「消費するミュージアム」でなく、市民が主体的に支えたいくなる「創造するミュージアム」であり続ける。すなわち小規模ミュージアムは、知的・物的・人的資源の将来にわたる安定的な提供機関として、また小規模だからこそ地域に密着し愛されるミュージアムとして、存在し続けることが重要であり、我々はそのことに誇りを持つ。

2014年 11月 11日

小規模ミュージアムネットワーク